

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年1月14日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【陸側遮水壁設備 ブラインタンク(2A)(2B)水位低下について】 陸側遮水壁設備※のブラインタンク(2A)(2B)の水位低下を確認。 現場調査の結果、ブライン(冷媒)がヘッダー管から凍結管へ送り込まれる部分で漏えいしていることを確認したため、送り込まれる手前にあるバルブを閉止し漏えい停止を確認。 数日後、再度、タンクの水位低下を確認したため、現場調査を実施。 ブライン(冷媒)が凍結管からヘッダー管に戻る部分で漏えいしていることを確認したため、ヘッダー管に戻る手前のバルブを閉止し漏えい停止を確認。 引き続き、タンクの水位を監視し、漏えいの原因調査、対策を検討する。 ブラインは30%塩化カルシウム水溶液で、環境への影響はなし。 塩化カルシウムは一般的には道路の融雪剤に使用されているものです。</p> <p>※ 陸側遮水壁設備は、ブライン(冷媒)がヘッダー管(送り側)から凍結管を通りヘッダー管(戻り側)に戻る仕組みとなっています。</p>	GⅢ	12月26日
2	<p>【共用プール低電導度廃液受けタンク(A)ドレン配管詰まりについて】 共用プール低電導度廃液受けタンク(A)のドレン弁を開操作したが、排水されないことを確認。 ドレン弁開閉の繰り返しおよびドレン弁配管を打診したが、排水に変化がなかった。 今後、ドレン配管の点検予定。</p>	GⅢ	1月7日
3	<p>【増設雑固体廃棄物焼却炉建屋の新設工事現場道路脇に仮置きした廃油缶からの油漏れについて】 増設雑固体廃棄物焼却炉建屋の新設工事現場道路脇に仮置きした廃油缶から、約6リットルの油漏れを確認。 原因は、道路脇に仮置きした廃油缶に工事車両が接触し、廃油缶に損傷を与えたためと推定。 吸着マット、鋤取りにより全量回収済み。 今後の対策として、道路近傍に廃油等を仮置きしないことおよび資材置き場と道路を明確に区画する。</p>	GⅢ	1月8日
4	<p>【1/2号機 排気筒ドレンサンプルピット水位低下事象に伴う公表資料の誤記について】 1/2号機 排気筒ドレンサンプルピット水位低下事象に伴う公表資料のうち、「(参考)3/4号排気筒ドレンサンプルピットの状況」に記載したサンプリングの日付に、誤記を確認。 (正)2016. 3. 17 (誤)2019. 3. 17 誤記がある資料を使用したのは、2019. 12. 19 「廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議」および2019. 12. 16 「特定原子力施設監視・評価検討会」。 今後、誤記の原因調査予定。</p>	GⅢ	1月8日